

ぼくと戦争—小池仁戦争体験画展

2016年2月24日(水)～4月10日(日)

12:00～16:00 休館日: 毎週月曜日・火曜日

会場: 東京大空襲・戦災資料センター2階

入館協力費 一般300円 中・高校生200円 小学生以下無料

東京大空襲・戦災資料センター

〒136-0073 東京都江東区北砂1丁目5-4

TEL03-5857-5631 FAX03-5683-3326

Web <http://www.tokyo-sensai.net/>

1945.3.10 TOKYO 鐵の雨(部分)



よみがえる あの日 あの時

小池仁が見た、描いた、70年前の出来事……

「東京大空襲」大作油絵展と

プロデュース 中村武正

「戦争をしてはならない本当の理由」挿絵原画展

1930(昭和5)年に川崎で生れて、戦時下の暮らしを体験された小池仁さんは、2015年7月に『戦争をしてはならない本当の理由—小池仁戦争体験画・文集』を自費出版されました。今回の特別展では、その本の挿絵原画と東京大空襲の大型絵画(油絵)を展示します。

小池さんが「日本は戦争しているんだな」と感じたのは1940年ごろといえます。1940年は紀元2600年の式典が開かれ、日中戦争が激化している時代、翌年はアメリカやイギリスなどと戦争するようになり、戦火は拡大していきました。小池さんは小学5年生でラップ手になり、早朝から多摩川の土手で練習させられました。ラップの手入れをおこたると平手打ちが飛んできたといえます。1945年の3月10日の東京大空襲は多摩川の土手からパーミロン色に染まる東京の様子を見ていました。翌4月15日は川崎空襲を体験し、たくさんの同級生を失いました。小池さんは言います。「僕の人生はこれを境に全て無くなってしまった」。

戦後70年が過ぎました。小池さんが体験した戦争を絵画の中から想像し、あらためて戦争とは何かを考えていただければと思います。

●特別企画 筆者(小池仁氏)講演会とサイン会 2016年2月27日(土)・3月27日(日)午後2時～

筆者(小池仁氏)と編集者(百瀬邦孝氏)のトーク 4月3日(日)午後2時～

監修 主任研究員・学芸員 山辺昌彦氏 研究員 小藺崇明氏



▼JR「秋葉原駅」中央改札口を出て左の2番バス乗り場から、都バス《葛西駅行き》(秋26)で35分、「北砂1丁目」下車2分

▼JR「錦糸町駅」南口3番バス乗り場から都バス《東陽町行き／東京駅丸の内北口行き》(東22)で「扇橋2丁目」下車、徒歩10分

▼東京メトロ東西線「東陽町駅」四つ目通り側5番乗り場から都バス《錦糸町行き》(東22)で「扇橋2丁目」下車、徒歩10分

▼JR・東武「亀戸駅」2番バス乗り場から、都バス《なぎさニュータウン行き／西葛西駅前行き》(亀29)で「北砂3丁目」下車、徒歩7分

▼東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄大江戸線「清澄白河駅」3番バス乗り場から都バス《葛西駅行き》(秋26)で「北砂1丁目」下車、徒歩2分

▼東京メトロ東西線「葛西駅」4番バス乗り場から都バス《秋葉原駅行き》(秋26)で20分、「北砂1丁目」下車、徒歩2分

▼都営地下鉄新宿線「住吉駅A4出口」、または「西大島駅A1出口」から、徒歩20分

▼東京メトロ半蔵門線「住吉駅B1出口」から、徒歩18分

* 錦糸町や東陽町からタクシーをご利用の場合は、「清洲橋通りの岩井橋の東詰交差点を左に入り、岩井橋クリニックの隣り」と言ってください。

ごあいさつ

この度、私の著書『戦争をしてはならない本当の理由』という画文集を出版しました。そのご縁で、ここ「東京大空襲・戦災資料センター」様のご厚意により、私が約15年に亘り描いてきた70年前に東京が受けた悲慘な事件の内、数点の大作を展示していただくことになりました。昨今の政治・世相は非常に危険な雰囲気を感じないわけにはいかないものがあります。

戦争を知らない世代が増え、政治を行う人達もその悲慘を知らず、日本の悪しき伝統ともいえる“神風”“大和魂”頼みのような考えしかない人達が、大勢を占める中、なんとか戦争を避けようと努力されている方々への私の励ましの言葉をお届けしたく思っております。よろしく願い申し上げます。

2016. 2. 24

日本美術会会員 小池 仁



平和美術展作品「1945. 3. 10 燃える人」の前にて
写真提供 東京民放



「1945. 3 TOKYO 萌えいずるもの」 2006年 非展示



「1945. 3. 10 TOKYO」 2000年



「3月10日の母と子」 2002年 非展示



「1945. 3. 10 焼跡の少年」 2005年